

神奈川県金融経済概況（2018年9月）

I. 概況

神奈川県の景気は、緩やかに拡大している。

輸出と設備投資は増加している。個人消費は、雇用・所得環境が着実に改善するもとの、持ち直している。住宅投資は弱めの動きとなっている。公共投資は増加している。こうした中、生産は横ばい圏内の動きとなっている。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 増加している。

- ・ アジア向け半導体等製造装置や金属加工機械を中心に増加している。この間、18/6月短観における18年度の輸出計画（製造業）をみると、高い水準であった前年度を幾分下回っている。

(2) 生産： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 輸送機械は、国内向けトラックが増加している一方、新興国向けトラックが低調であることや、乗用車が弱含んでいることから、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 素材関連は、化粧品が増加している一方、生産設備の一時的な点検および補修等の影響がみられ、全体としては横ばい圏内の動きとなっている。
- ・ 電気機械は、自動車向け製品等が増加している一方、発電施設向け機器が減少していることなどから、弱含んでいる。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、金属加工機械や半導体等製造装置が好調なことなどから、増加している。

(3) 設備投資： 増加している。

- ・ 18/6月短観における18年度の設備投資計画は、好調な内外需要や収益改善を背景に、能力増強投資や更新投資、省人化投資等を上積みする動きがみられている。この結果、前回調査比上方修正され、前年度を2割弱上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 労働需給が引き締まりを続けているほか、所得環境も着実に改善している。

- ・ 18/7月の有効求人倍率（勤務地ベース）は、統計が公表されている05/2月以降で最も高い水準となった。こうしたもとで、常用雇用者数と名目賃金は増加基調にあり、雇用者所得は着実に改善している。この間、夏季一時金要求妥結状況（最終とりまとめ、神奈川県かながわ労働センター調べ）をみると、妥結金額および妥結月数はともに前年を上回った。

(5) 個人消費： 持ち直している。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が好調なほか、身の回り品も堅調であるものの、ウエイトの大きい衣料品が低調であるため、弱めの動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、猛暑により飲料やアイス等の売れ行きが良好であったことや、生鮮野菜の価格上昇などから、緩やかに持ち直している。
- ・ 家電販売額は、買替需要の増加を背景に、白物家電やテレビ、携帯電話などが堅調なほか、気温の上昇からエアコンや扇風機といった季節家電も増加していることなどから、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、主力車種のモデルチェンジや新型車投入などから、持ち直している。

《参考》

- ・ 県内観光の動向をみると、横浜市内のホテルを中心に宿泊施設は高い客室稼働率を維持した一方、県内の観光施設では猛暑や台風の影響などから利用客数が減少した先が多かった。

(6) 住宅投資： 弱めの動きとなっている。

- ・ 18/7月の新設住宅着工戸数は、貸家が増加した一方、分譲マンション、持家、分譲戸建てが減少し、全体では前年を1割程度下回った。

(7) 公共投資： 増加している。

- ・ 18/7月の公共工事請負額は、県や国が減少した一方、市町村と独立行政法人が増加したことから、全体でも前年を1割程度上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けも不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：6月+1.8%→7月+1.8%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き緩やかに低下している（月末貸出約定平均金利：6月1.148%→7月1.140%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：6月+2.9%→7月+2.6%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。